

私の町の防災探検をしよう!?

座間市は令和元年(2019年)10月12日に、市として初めて相模川流域の住民の方へ洪水の避難勧告(当時)を発令し約1000名の市民が避難しました。



いつ来るかわからない「災害」(地震・火災・大雨など)に対して皆さんは、自分の町が災害に巻き込まれたときのことを考えていますか? 座間市の「ハザード・マップ」を見ながら自分の町を「防災」という目で探検してしてみませんか? 家族で参加してみてください。

日時: **令和5年9月30日(土曜日)** 受付 9時15分から

第1部 9時30分から10時 座間市ハザードマップ解説

第2部 10時から12時 (地図を読む)

昼食 12時から12時50分

第3部 13時から14時20分 (町を歩こう)

休憩 14時20分から14時40分

第4部 14時40分から15時10分 (まとめ)

会場: 新田宿・四ツ谷コミュニティセンター 大集会室

募集人員: 30名 持ち物・服装: 筆記用具・昼食・飲み物・「町歩き」ができる服装

注意: 熱中症警戒アラートなどの警報が出た場合は、「町歩き」は中止します。

受講料: 無料 家族やサークル単位での参加大歓迎。

令和5年度 座間市+ZSVNの防災啓発研修会事業②-2

【問い合わせ先】 座間市危機管理課 電話: 046-252-7395

FAX: 046-252-7773

または、NPO法人 ざま災害ボランティアネットワーク

E-MAIL: zama.saigaiVN@gmail.com



座間、新田宿、四ツ谷地区は、古くから八王子街道に沿って座間村の中心として栄えてきました。

近年においては、昭和57年(1982年)に大きな洪水が発生しています。記憶に新しい出来事は、令和元年(2019年)10月12日、台風19号では、大雨による増水によって城山ダムの緊急放流が行われ、これに伴い座間市は、相模川流域の地区に避難勧告(当時)を発令し約1000名の住民の方が避難を行いました。幸いに人的被害はありませんでした。

しかし、何よりも被害が大きかったのは大正11年(1923年)9月1日の【関東大震災】による相模川流域地区の「液状化」による被害でした。座間村では村内の橋はほとんど落ち、新田宿、四ツ谷、中河原一帯では地震によって、地割れが起き、地中の水が液状化現象により吹き上げられ一帯では多くの建物が、3尺(約1メートル)沈み込んでしまい、約50%の建造物が何らかの被害を受けたとの記録が村の古文書に残されています。

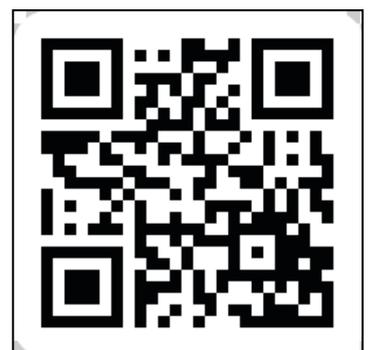
今年は【関東大震災】から100年目ですが、地盤そのものは当時のままであり、相模川の水が地層の中に沁み込んでいる自体には変化がありません。再び、大規模な地震の揺れが起きれば、地盤耐震改良工事がされていればその部分の被害は最小に抑えられるも、周囲の地盤は往時の液状化の景色が再現されると考えられます。また、近年の【気象災害】の激甚化傾向は、過去の経験は役に立たない程の降雨量をもたらしていることは各地で起きている【水災害】の被害を見れば避難に対しての備えが必要だと思えます。

町を歩いて皆さんで考え、行動のスイッチを入れましょう。

座間市とNPO法人ざま災害ボランティアネットワークは協働事業として今年度は、DIGというワークショップを相模が丘地区と新田宿、四ツ谷地区で行います。

座間市は、過去の「まち」の歴史の中から見ても、地震・火災そして水からの災害に備えなければなりません。

2023年は、大正11年9月1日に起きた「関東大震災」から100年を迎えます。この機会に、地域でも「災害」を自分たちのこととして考えてください。



申し込み用QRコード